

	回数	内容	サテライト開講	対面録画
授業の計画	第1回	オリエンテーション：受講者との講義の進め方の相談～どのような内容の講義とするかを確認する。	-	対面
	第2回	ITの現場と会計情報：財務会計と管理会計に関わる考え方についてディスカッション～IT投資の動向とIT投資マネジメントに関する基礎理論を講義する。	-	対面
	第3回	企業会計の基礎：B/S、P/L、キャッシュフローの読み方を学習～会計初学者をメインとして、財務諸表の読み方や会計特有の用語やルールを確認していく。	-	対面
	第4回	財務諸表クイズ（1）財務諸表を読み取るためのポイント確認とディスカッションを行う。具体的な指標を計算して数値を読解する。	-	対面
	第5回	財務諸表分析の基礎：財務諸表分析と企業価値の計算について学習～企業価値に関する諸見解を講義し、企業価値経営、EVA経営についての学習を行う。	-	対面
	第6回	財務諸表クイズ（2）：財務諸表や企業価値に関わる演習とディスカッション～数社の匿名企業の財務諸表データを一覧して、どの企業かを当てるクイズを行う。	-	対面
	第7回	経済性計算の基礎：キャッシュフローによる経済性計算の考え方～意思決定のための会計情報の利用について学習する。	-	対面
	第8回	経済性計算演習（1）：経済性評価クイズ～簡単な設問から、損した金額や利益の金額などを導き出す演習を行う。	-	対面
	第9回	経済性計算による意思決定問題：資金の時間価値・意思決定問題のタイプと判断基準～意思決定のタイプを数タイプ類型化し、意思決定に必要な経済性の判断基準の妥当性について学習する。	-	対面
	第10回	経済性計算演習（2）：意思決定問題演習～数問の問題を提示し、どのような意思決定タイプかを見抜き、経済性の計算に必要な数字の取り扱いを学習する。演習として経済性計算を行う。	-	対面
	第11回	PICによる経済性計算：キャッシュフローによる投資案の評価と選択～複数の投資案件をどのように優先づけていくかについて具体的な判断方法を学習する。	-	対面
	第12回	経済性計算演習（3）：投資意思決定演習～投資選択問題を解き、IT投資評価につながる視野を得る。	-	対面
	第13回	IT投資マネジメント：IT投資評価について経済性計算、総合的評価などの側面から検討～経済性分析をIT投資評価へ応用することに対する諸学説をレビューする。	-	対面
	第14回	SCを使ったIT投資マネジメント：BSCと連動したITポートフォリオなどの作成に関わる演習とディスカッション～経済性分析によらないIT投資マネジメントの手法について検討する。	-	対面
	第15回	総括：総括として、業績評価、経済性計算、BSCを実践する上での課題などについて議論する。	-	対面
	試験	範囲は講義全体として、①計算問題、②意思決定問題、③論述問題のいずれか2つを課す。	-	対面
成績評価	ミニレポート：28点 授業内での議論を踏まえてミニレポートとしてまとめる。その内容に対して評価すると同時に、授業への貢献度・有益度を評価する。（討論対象回4回×最高7点） 課題：50点 授業内にて行う演習の内容によって評価を行う。（演習対象回5回×最高10点） 知識習得：22点 最終講義時に確認テストを実施。試験は22点満点とする。なお、時間的制約などから試験を同等のレポート提出とする場合もある。			
教科書・教材	授業ごとに事前にダウンロード可能にしておくので、授業時に使用できるようにしておくこと。			
参考図書				
獲得可能なコンピテンシー		獲得可能度合 (◎ ○ △ -)	獲得可能な内容	
メ タ	コミュニケーション能力	-		
	継続的学修と研究の能力	-		
	チーム活動	-		
コ ア	システム提案・ネゴシエーション・説得	-		
	ドキュメンテーション	△		
	革新的概念・発想	-		
	ニーズ・社会的・マーケット的視点	-		
	問題解決	-		
	リーダーシップ・マネジメント	-		
	ファシリテーション・調整	-		

専攻名	情報アーキテクチャ専攻	必修・選択	選択	単位	2	学期	2Q
科目群	マネジメント系科目群	科目名	情報ビジネス特別講義 3			教員名	大塚 有希子
		(英文表記)	Organization Theory				

概要	<p>組織における組織構築、組織運営、組織継続について学習する。授業では、組織管理の知識を網羅的に整理しながら、組織マネジメントの方法を紹介する。また、事例発表研究などを通して組織管理の制度の光と影を考えていくことで、知識の定着を図り、社会人としての基礎的なビジネス知識基盤を得ることを方針とする。</p> <p>本講義は、木曜日以降の都合の良い時間に録画コンテンツ教材を使った個人のペースの学習を行い、翌火曜日の大学院での対面講義によってその学習内容について発表・討議を行う「反転学習」コースである。事前学習は重要ではないが、自組織または対象組織について自己研究が必要となることを認識して講義に臨んでほしい。</p>			
目的・狙い	<p>この授業は、学習者が組織人として知っておくべき組織に関する基礎的な識を習得することを目的とする。組織の間接部門の重要性や業務について、事例研究を基に自分自身や自身の組織について考えが及ぶことができるようになることも狙い一つである。</p> <p>修得できる知識単位:</p> <p>(A1) K-03-11-01: 情報セキュリティ (レベル2) 情報の脆弱性 (A1) K-03-11-02: 情報セキュリティ管理 (レベル2) 情報資産とリスクの概要、情報セキュリティホリシ (A1) K-03-11-03: 情報セキュリティ対策 (レベル2) アカウント管理、不正アクセス対策、情報漏えい対策 (A3) K-06-16-01: システム監査 (レベル4) 意義と目的、対象業務、計画・実施・報告、監査基準 (A3) K-06-16-02: 内部統制 (レベル4) 意義と目的、IT ガバナンス、COBIT、評価と改善 (A2) K-08-19-01: 経営戦略手法 (レベル2) 競争戦略、コアコンピタンス、企業理念、事業ドメイン (A2) K-08-19-02: マーケティング (レベル2) 広告戦略、ブランド戦略 (A2) K-08-19-03: ビジネス戦略と目標・評価 (レベル2) ビジネス戦略立案、ビジネス環境分析、戦略目標 (A3) K-09-22-01: 経営・組織論 (レベル4) 経営組織、CI、コーポレートガバナンス、ヒューマンリソース (A3) K-09-23-03: 会計・財務 (レベル2) 財務会計、管理会計、会計基準、財務指標、IFAS (A3) K-09-23-03: 労働関連・取引関連法規 (レベル4) 労働基準法、外部委託契約、労働者派遣法 (A3) K-09-23-04: その他の法律・ガイドライン・技術者倫理 (レベル4) コンプライアンス、会社法</p>			
前提知識 (履修条件)	<p>社会人等、組織の中での業務経験がある。または組織の中での業務を希望している。</p>			
到達目標	上位到達目標			
	組織の中で、組織構築、組織運営、組織継続に関するマネジメントの責任者としての業務ができるようになる。			
	最低到達目標			
	組織の中で、組織構築、組織運営、組織継続に関するマネジメントのオペレーション業務ができるようになる。			
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点	
	録画・対面混合授業	◎	偶数回の講義は録画講義を自分のペースで受講する、質問などはLMSまたは奇数回の対面講義で受け付ける。火曜日の対面講義は品川キャンパスで自宅学習の復習と演習を中心に行う。	
	対面授業	講義(双方向)	-	
		実習・演習(個人)	-	
		実習・演習(グループ)	-	
	サテライト開講授業	○		
その他	-			
授業外の学習	<p>本講義は事前にLMSにUPした録画講義で自分のペースで理解できるまで学習・研究を行う。学習レベルの確認のために講義受講後LMSで理解度テストを課す場合もある。また、次回の対面講義までに事例研究および対面講義での発表を課すことがある。</p>			
授業の内容	<p>本講義は、独自のレジюмеで行う。対面授業では講義に関する事例研究の発表および討議を行う。対面授業では事例研究・討議をもとにした考察レポートを提出する。</p>			

	回数	内容	サテライト開講	対面録画
授業の計画	第1回	(6月16日火曜日) 講義概要の説明と受講者のスキル診断: 講義の目的と学習内容の解説し、学生が講義選択の判断ができるようにする。また、授業において一貫した視点を持つための研究テーマを選択する。	有	対面
	第2回	(6月18日木曜日) 組織構築1 組織戦略とIR 組織戦略が反映されている財務情報の見方と、情報公開についてビデオ学習で学ぶ。	-	録画
	第3回	(6月23日火曜日) 第2回の学習内容についての事例発表と討議。	有	対面
	第4回	(6月25日木曜日) 組織構築2 組織戦略とCI 組織戦略に基づいた企業イメージの発信や企業文化についてビデオ学習で学ぶ。	-	録画
	第5回	(6月30日火曜日) 第4回の学習内容についての事例発表と討議。	有	対面
	第6回	(7月2日木曜日) 組織構築3 組織構造 組織戦略に基づいた様々な組織構造のあり方と特徴についてビデオ学習で学ぶ。	-	録画
	第7回	(7月7日火曜日) 第6回の学習内容についての事例発表と討議。	有	対面
	第8回	(7月9日木曜日) 組織運営1 人事制度 多様な働き方とワーク・ライフ・バランスについてビデオ学習で学ぶ。	-	録画
	第9回	(7月14日火曜日) 第8回の学習内容についての事例発表と討議。	有	対面
	第10回	(7月16日木曜日) 組織運営2 労務管理 労務管理制度、給与管理制度等、様々な労務管理の制度についてビデオ学習で学ぶ。	-	録画
	第11回	(7月21日火曜日) 第10回の内容についての事例発表と討議。	有	対面
	第12回	(7月23日木曜日) 組織運営3 人材育成 目標管理制度や人材の能力開発に関する制度についてビデオ学習で学ぶ。	-	録画
	第13回	(7月28日火曜日) 第12回の内容についての事例発表と討議。	有	対面
	第14回	(7月30日木曜日) 組織の継続 リスク管理 COBITやシステム監査等、組織継続のリスク管理についてビデオ学習で学ぶ。	-	録画
	第15回	(8月4日火曜日) 第14回の内容についての事例発表と討議。	有	対面
	試験	(8月6日木曜日) 試験	-	対面
成績評価	対面授業の出席率 30 発表得点 30 試験点数 40			
教科書・教材	教科書は特に指定しない ビデオ講義資料(及び課題を指定された場合)は、対面講義時に持参すること。			
参考図書	参考図書は特に指定しない			
獲得可能なコンピテンシー		獲得可能度合 (◎ ○ △ -)	獲得可能な内容	
メ タ	コミュニケーション能力	-		
	継続的学修と研究の能力	-		
	チーム活動	-		
コ ア	システム提案・ネゴシエーション・説得	-		
	ドキュメンテーション	-		
	革新的概念・発想	-		
	ニーズ・社会的・マーケット的視点	-		
	問題解決	-		
	リーダーシップ・マネジメント	-		
	ファシリテーション・調整	-		

専攻名	情報アーキテクチャ専攻	必修・選択	選択	単位	2	学期	4Q
科目群	エンタープライズ系科目群	科目名	IT 特論			教員名	小山 裕司
		(英文表記)	Technology Management				

概要	<p>当科目では、企業で業務情報システムを構築する際に必要とされる情報技術（プログラミング言語、クラウド等）に関して、各分野の識者にゲスト講師として講演していただき、講演から現在及び今後の技術トレンドを理解する同時に、ゲスト講師のキャリアを参考にし、学生の今後のキャリア設計の手がかりにしていきたい。</p> <p>講義は2コマ連続（90分×2=3時間）で行い、講師による講演と、講演内容に関する担当教員による解説と、議論を行い、理解が深まるように努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初の20分：担当教員による前回授業の補足と当日の講演のバックグラウンドの解説（第1回はガイダンス） 約100分：ゲスト講師の講演 最後の60分：ゲスト講師への質疑・議論 			
目的・狙い	<p>情報技術の専門家の話を直接聞き、質疑・議論することにより、現在及び今後の情報技術のトレンドを理解することを目的とする。具体的には、以下の事項の理解・修得を目的とする。情報システム関連業務を数年経験した者が最低到達レベル以上であり、10年超経験したものが上位到達レベルに到達できることを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各講師の講演による情報技術の内容 情報技術が生まれた背景・理由 関連する事項（業務情報システムへの活用等） 高度IT専門職のキャリア <p>修得できる知識単位： (A4) K-07-17-03 ソリューションビジネス（修得レベル4）業務パッケージ、クラウド技術等 (A4) K-08-20-02 技術開発計画（修得レベル4）技術ロードマップ等</p>			
前提知識 (履修条件)	<ul style="list-style-type: none"> 基本情報技術者試験レベルの知識があること（特に、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、プログラミング等の基礎知識）。 情報システム関連業務に従事し、情報システム及び各種業務・事業に関する基本知識があること。講義はある程度の専門知識があることを前提に話してもらう。 			
到達目標	上位到達目標			
	<ul style="list-style-type: none"> 各技術の特徴をしっかりと理解し、各技術を自分の業務に活用・提案できるレベル 			
到達目標	最低到達目標			
	<ul style="list-style-type: none"> 各技術の内容・背景等が理解できるレベル 各技術をある程度活用できるレベル 			
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点	
	録画・対面混合授業	-		
	対面授業	講義（双方向）	○	学生によるオンラインツール・発表等から授業参加を期待する。
		実習・演習（個人）	-	
		実習・演習（グループ）	-	
サテライト開講授業	○	質疑・議論には積極的に参加すること。		
その他	-			
授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> 各講師の経歴・バックグラウンド等を事前に理解すると講演の理解が深まる。 授業で指示されたレポート課題を作成すること。 			
授業の内容	<p>計7名のゲスト講師に講演してもらう。各講師のテーマは、直前により相応しいものがある場合は変更することもある。各講演の内容に関する課題レポートと、最後の授業終了後にレポートあるいは試験を課す。以下のゲスト講師は2013年度に登壇いただいたもので、2015年度のゲスト講師は9月頃までに確定・公開する。</p>			

	回数	内容	サテライト開講	対面録画	
授業の計画	第1回	竹迫 良範 氏=サイボウズ・ラボ株式会社 「プログラミング言語の変遷と技術トレンド」	有	対面	
	第2回	〃	《課題1》	有	対面
	第3回	若狭 正生 氏=日本オープン・ウェブ・アソシエーション 理事 「HTML5 から始まる技術革新」	有	対面	
	第4回	〃	《課題2》	有	対面
	第5回	小松 宏行 氏=株式会社ワークスアプリケーションズ エグゼクティブ・フェロー 本学客員教授 「ERP・B2B ソフトウェアの動向と技術者の興味」	有	対面	
	第6回	〃	《課題3》	有	対面
	第7回	玉川 憲 氏=アマゾン データ サービス ジャパン株式会社 技術統括本部 本部長・ソリューションアーキテクト 「クラウドインフラの今後」	有	対面	
	第8回	〃	《課題4》	有	対面
	第9回	末廣 陽一 氏=国際化 JP 株式会社 代表取締役 「ソフトウェア I18N の歴史と技術」	有	対面	
	第10回	〃	《課題5》	有	対面
	第11回	岩田 真一 氏=ATOMICOM Managing Director 「海外 VC からみたテクノロジーとワークスタイル」	有	対面	
	第12回	〃	《課題6》	有	対面
	第13回	香取 徹 氏=株式会社アゼスト 代表取締役社長 「サービスデザイン思考とユーザーエクスペリエンス」	有	対面	
	第14回	〃	《課題7》	有	対面
	第15回	〈総括等〉 これまでの講義を振り返り、総括する。	有	対面	
試験	〈試験あるいは最終レポート〉	-	対面		
成績評価	<p>課題レポート 70%、最終試験 20%、授業貢献度 10%を基準として総合的に評価する。レポート等の提出物は締切厳守されたし。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各講演の内容に関連した課題レポート（各 10 点×7 回=70 点） 評価は、ゲスト講師の話の理解度とレポートの内容で行う。レポートの提出締切は、講義終了後 4 日である。 最終レポートあるいは試験（20 点） 7 回の講演と最終回の講義に関するレポートあるいは試験 授業への貢献度（10 点） 質疑・議論で、学生の興味、あるいは講師から興味深いコメントを引き出す等の貢献 				
教科書・教材	資料は LMS 上にオンラインで配布する。				
参考図書	講義時に適宜指示する。				
獲得可能なコンピテンシー		獲得可能度合 (◎ ○ △ -)	獲得可能な内容		
メ タ	コミュニケーション能力	-			
	継続的学修と研究の能力	-			
	チーム活動	-			
コ ア	システム提案・ネゴシエーション・説得	-			
	ドキュメンテーション	-			
	革新的概念・発想	-			
	ニーズ・社会的・マーケット的視点	-			
	問題解決	-			
	リーダーシップ・マネジメント	-			
	ファシリテーション・調整	-			

専攻名	情報アーキテクチャ専攻	必修・選択	選択	単位	2	学期	3Q
科目群	マネジメント系科目群	科目名	プロジェクト管理特別講義			教員名	酒森 潔
		(英文表記)	Project Management Practice				

概要	<p>プロジェクト管理の基本は、実行可能な計画を立てること、およびその計画に基づいてプロジェクトを実施することである。この講義ではプロジェクト管理をこれから学ぼうと考える人に、簡単なプロジェクトの計画を立て、リアルタイムシミュレータによりプロジェクトの実践を体験させることで、プロジェクト管理の基本を身につけさせる。本講義は、月曜と土曜に授業を行うが、月曜の講義は直接講義に出席して受講しても、収録されたビデオを自宅や会社で自分のペースに合わせて学習しても良い、学習したことを基に次の土曜の対面講義で教員や他の学生と議論し理解を確実なものとする。</p>			
目的・狙い	<p>本講義はITプロジェクトの計画を立て、リアルタイムのプロジェクトシミュレータを使って実践をおこなうことで、プロジェクト実行においてどのようなことが起こるか理解することを第1の目標とする。さらに理解したプロジェクト管理に必要な行動を起こせるようなプロジェクト計画書を作成することで、実戦的なプロジェクト管理が可能となる。</p> <p>修得できる知識単位:</p> <p>(A3) K-05-14-01:プロジェクトマネジメント (レベル3) プロジェクト, プロジェクトマネジメント, プロジェクトの環境</p> <p>(A3) K-05-14-02:プロジェクト統合マネジメント (レベル3) プロジェクト計画の作成, プロジェクト作業の指揮, プロジェクト作業のコントロール</p> <p>(A3) K-05-14-03:プロジェクトステークホルダマネジメント (レベル3) ステークホルダの特定, ステークホルダの管理</p> <p>(A3) K-05-14-04:プロジェクトスコープマネジメント (レベル3) WBSの作成, アクティビティの定義</p> <p>(A3) K-05-14-05:プロジェクト資源マネジメント (レベル3) プロジェクトチームの結成, プロジェクトチームの管理</p> <p>(A3) K-05-14-06:プロジェクトタイムマネジメント (レベル3) スケジュールの作成, スケジュールのコントロール</p> <p>(A3) K-05-14-07:プロジェクトコストマネジメント (レベル3) コストの見積り, 予算の編成, コストのコントロール</p> <p>(A3) K-05-14-08:プロジェクトリスクマネジメント (レベル3) リスクの特定・評価・対応, リスクのコントロール</p> <p>(A3) K-05-14-09:プロジェクト品質マネジメント (レベル3) 品質の計画, 品質保証の実施, 品質コントロール</p> <p>(A3) K-05-14-10:プロジェクト調達マネジメント (レベル3) 調達の計画, サプライヤの選定, 調達の管理</p> <p>(A3) K-05-14-11:プロジェクトコミュニケーションマネジメント (レベル3) コミュニケーションの計画, 情報の配布</p>			
前提知識 (履修条件)	情報処理システムの開発の経験があり、またプロジェクト管理について十分な知識があること。			
到達目標	上位到達目標			
	プロジェクトには、予定通りには進まない様々な制約やリスクが潜んでおり、それらの対応方法には正解は無く、プロジェクトごとにあるいは実行中の状況や場面によって異なるものであるということを理解する。そして状況に応じた適切な判断を自ら行う事が出来るようになる。			
	最低到達目標			
授業の形態	形態		実施	特徴・留意点
	録画・対面混合授業		◎	偶数回の講義は録画講義を自分のペースで受講することができる。質問などはLMSまたは偶数回の対面講義で受け付ける。対面講義は品川キャンパスで自宅学習の復習と演習を中心に行う。
	対面授業	講義(双方向)	-	
		実習・演習(個人)	-	
		実習・演習(グループ)	-	
	サテライト開講授業		○	基本的に月曜の講義のみ可
その他		-		
授業外の学習	<p>講義の前には事前に配布する授業のレジュメを読んでくること。</p> <p>講義後は毎回配布する復習レポートに、授業のまとめ・意見を書いて提出すること。</p> <p>対面講義の前に必ず録画可能講義を受講しLMSで指示された課題を行ってこよう。</p>			
授業の内容	<p>講義は、STS社のオンラインシミュレータの実施を中心に行う。事前の録画受講可能講義でプロジェクトスケジュール計画や進捗管理、リスク管理の方法などを学び、対面講義で学んだことを活用する演習を行う。演習の結果得られたコンピテンシーについて、チームでまとめ第15回の対面講義で発表する。</p> <p>第14回と第16回(試験日)は録画受講可能日とはしないので注意すること。</p>			

	回数	内容	サテライト開講	対面録画
授業の計画	第1回	本講義のガイダンスとPMスキル診断 :本講義のガイダンスおよび、シミュレータの概要、プロジェクトに関するスキル診断をおこなう。	-	対面
	第2回	プロジェクトの基礎知識とスケジューリング :プロジェクトの基礎知識やクリティカルパスに関する知識の講義をおこなう。	有	録画
	第3回	スケジュール作成に関する演習 :クリティカルパスや要員の制約などを考慮したスケジュール作成の考え方について、グループ演習方式で学ぶ	-	対面
	第4回	シミュレータプロジェクトについての説明 :本講義で実施するプロジェクトシミュレータについてその目的や制約などについて説明し、あわせてステークホルダーマネジメントやリスクマネジメントの方法についても解説する。	-	録画
	第5回	シミュレータプロジェクトの状況につき理解する :グループでシミュレータプロジェクトについて理解し、ステークホルダ戦略やリスクへの対応戦略を策定する。これらをもとに要員計画を策定しシミュレータプロジェクトに設定する。	-	対面
	第6回	プロジェクトコストや品質管理の考え方を説明する :スケジュールやコスト管理の方法としてEVMの基本的な考え方や品質管理、要員のコスト管理を解説する。	有	録画
	第7回	シミュレータプロジェクト前半部分の実行 :最終的なシミュレータの設定を確認し、シミュレータの前半部分を実施する。プロジェクト実施に必要なPMとしての判断対応を実践する。またEVMによるプロジェクト管理にもチャレンジする。	-	対面
	第8回	シミュレータ前半実施結果に対する講評1 :教員より各チームのシミュレータ前半部分の実施結果に対する講評を行い、後半にむけて注意すべき点を説明する。	有	録画
	第9回	シミュレータ前半部分のまとめと後半戦略策定 :グループでシミュレータの前半部分の結果のまとめを行い、EVMによる活動報告、品質管理の見直し、要員とコミュニケーション、リスクマネジメントなどを行う。	-	対面
	第10回	シミュレータ前半実施結果に対する講評2 :教員より各チームのシミュレータ前半部分の実施結果に対する講評を行い、反省点や後半にむけて注意すべき点を説明する。	有	録画
	第11回	シミュレータプロジェクト後半の実行 :グループでシミュレータの前半部分の反省に基づき、後半部分の計画の見直しや戦略の策定をおこなったのち、後半部分を実施する。終了後実行結果について分析のための資料を収集する。	-	対面
	第12回	シミュレータ実施結果に対する講評 :教員より各チームのシミュレータ全体の実施結果に対する講評を行い、反省すべき点や注意すべき点を説明する。	有	録画
	第13回	シミュレータによって学んだことのまとめ1 :チームごとにシミュレータの結果や学んだプロジェクトマネジメントのポイントについてまとめる。	-	対面
	第14回	シミュレータによって学んだことのまとめ2 :チームごとにシミュレータの結果や学んだプロジェクトマネジメントのポイントについてまとめる。(注:金曜対面)	-	対面
	第15回	シミュレータによって学んだことの発表 :チームごとにシミュレータの結果や学んだプロジェクトマネジメントのポイントについて発表する。	-	対面
	試験	本講義で学んだプロジェクトの実践において重要な計画要素や、実施中の判断力を問う問題を記述方式と、択一方式で出題する。	-	対面
成績評価	次の項目の合計100点満点で評価する 1 各演習の発表資料 40点 (グループ作業や発表後、個人で作成し提出) 2 期末試験 60点			
教科書・教材	教科書は特に指定しない 録画講義可能な講義回は資料をLMSシステムで配布するので、各自授業前にダウンロードすること。			
参考図書	PMI 著、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド(PMBOK®ガイド)第5版』 『情報処理技術者スキル標準』 http://www.iitec.jp/1_17skill/pdf20040329/FE0329.pdf			
獲得可能なコンピテンシー		獲得可能度合 (◎ ○ △ -)	獲得可能な内容	
メ タ	コミュニケーション能力	○	チームでブレインストーミングを実践する	
	継続的学修と研究の能力	-		
	チーム活動	○	チーム活動によるプロジェクトの疑似体験を行う	
コ ア	システム提案・ネゴシエーション・説得	-		
	ドキュメンテーション	-		
	革新的概念・発想	-		
	ニーズ・社会的・マーケット的視点	-		
	問題解決	-		
	リーダーシップ・マネジメント	○	プロジェクトを成功させるためのリーダーシップを学ぶ	
	ファシリテーション・調整	○	チーム演習の機材や実施準備を通じてファシリテーションを学ぶ	

専攻名	情報アーキテクチャ専攻	必修・選択	選択	単位	2	学期	1Q
科目群	マネジメント系科目群	科目名	プロジェクト管理特論 1			教員名	濱 久人
		(英文表記)	Project Management 1				

概要	<p>プロジェクトマネジメントの基本を、プロジェクトマネジメントの国際標準 ISO21500 及びデファクトスタンダードである PMI (Project Management Institute)の「PMBOK ガイド®第5版」に基づいて学習する。学習に当たっては、PMBOK®ガイドで定義された知識体系を基本に実施するが、実務につながるように演習を取り入れ、実質的なプロジェクト計画や管理の方法を理解する。</p> <p>体系化されたカリキュラムでプロジェクトマネジメント知識を網羅し、上位の講座である「システム開発プロジェクトマネジメント論」を学習するための基礎知識を得る。</p>							
目的・狙い	<p>この授業は、学習者がプロジェクトマネジメントの体系的な知識を習得することを目的とする。</p> <p>具体的には、学習者はこの講義を通じて以下の知識や能力を習得できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) プロジェクトの立上げから終結までのプロセスを理解する。 2) PMBOK®の 10 の知識エリアを理解する(統合マネジメント、ステークホルダーマネジメント、スコープマネジメント、タイム・マネジメント、コスト・マネジメント、品質マネジメント、人的資源マネジメント、コミュニケーションマネジメント、リスクマネジメント、調達マネジメント)。 3) プロジェクト・マネジャーに必要なヒューマンスキル(コミュニケーション、リーダーシップ、コーチング、メンタリング、ファシリテーション、交渉力、問題解決力)を理解する。 <p>修得できる知識単位:</p> <p>(A3)K-05-14-01:プロジェクトマネジメント(レベル3) プロジェクト, プロジェクトの環境 (A3)K-05-14-02:プロジェクト統合マネジメント(レベル3) プロジェクト計画の作成、プロジェクト作業の指揮 (A3)K-05-14-03:プロジェクトステークホルダマネジメント(レベル3) ステークホルダの特定、管理 (A3)K-05-14-04:プロジェクトスコープマネジメント(レベル3) スコープの定義、WBS の作成、スコープコントロール (A3)K-05-14-05:プロジェクト資源マネジメント(レベル3) チームの結成、プロジェクトチームの育成、管理 (A3)K-05-14-06:プロジェクトタイムマネジメント(レベル3) アクティビティの順序付け、スケジュールの作成 (A3)K-05-14-07:プロジェクトコストマネジメント(レベル3) コストの見積もり、予算の編成、コントロール (A3)K-05-14-08:プロジェクトリスクマネジメント(レベル3) リスクの特定、評価、対応 (A3)K-05-14-09:プロジェクト品質マネジメント(レベル3) 品質計画、品質コントロール (A3)K-05-14-10:プロジェクト調達マネジメント(レベル3) 調達計画、調達管理 (A3)K-05-14-11:プロジェクトコミュニケーションマネジメント(レベル3) コミュニケーション計画、管理</p>							
前提知識 (履修条件)	<p>特にないが、プロジェクトの経験(社会人の方は実際に経験したプロジェクト、学生の方は学生時代のイベントなどで可)があると理解しやすい。</p>							
到達目標	上位到達目標							
	IT スキル標準レベル4							
	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模のプロジェクト(10人月程度)をPMとして実行できるようになる ・大規模なプロジェクトのPM補佐、あるいはサブプロジェクトのリーダーができるようになる ・PMP(プロジェクトマネジメントプロフェッショナル)試験合格 							
	最低到達目標							
授業の形態	IT スキル標準レベル3							
	・プロジェクトにおいてPM補佐、あるいはサブプロジェクトのリーダーができるようになる							
	形態		実施	特徴・留意点				
	対面授業	録画・対面混合授業		-	録画による授業の補完は可能			
		講義(双方向)	○	プロジェクトマネジメントの知識に関しては、講義と講師の経験事例を通じて、PMBOK®の知識エリアごとに行う				
				さらに講義レポートを通じて、意見/質問に各回の冒頭で、双方向の議論を行う				
				実習・演習(個人)				
実習・演習(グループ)		○	自らの事例をまとめる課題により実施する					
サテライト開講授業		-						
その他		-						
授業外の学習	<p>グループ検討は、講義内の検討では時間的に十分とは言えない。グループで提出する課題について、グループメンバーが集まって、授業外の活動において、検討し、まとめていくことが必要である。</p> <p>このような活動は、プロジェクトそのものであり、講義で得た知識を実践の場で活用する有効な場でもある。グループをチームとしてまとめ、結論をまとめていく活動は、プロジェクトマネジメントそのものを体感し、実践に結び付けるためのポイントを学ぶ有効な場となる。</p>							
授業の内容	<p>授業計画の全体について</p> <p>講義は毎回配布するレジュメを使用しておこなう。レジュメはPMBOK®ガイド第5版(及びISO21500)に基づいて作成したものである。毎回授業の始めに重要ポイントと業務への活用、質問を記述する講義レポートを配布し、終了後回収する。この講義レポートは、講師のコメントを加えて、次の回に受講者に返却し、主要な質問に関して、講義の最初に議論を行う。</p>							